

第33回

日・中・韓ジュニア交流競技会(卓球)

The 33rd Japan・China・Korea
Junior Sports Exchange Meet 2025



期 日：令和7年8月23日(土)～29日(金)

会 場：中国・内モンゴル自治区 包頭市体育センター

主 催：(公財)日本スポーツ協会

- 1.大会名 第33回日・中・韓ジュニア交流競技会
- 2.大会期間 令和7年8月23日(土)～29日(金)
- 3.会場 中国・内モンゴル自治区 包頭市体育センター
- 4.宿 舎 包頭賓館(Baotou Hotel)
- 5.種 目 男子団体・女子団体
- 6.競技方法 日本・韓国・中国・開催地の4チームによるリーグ戦
- 7.日 程

8月22日(金)	16:00 17:00～ 17:45～	集合(ヴィラフォンテーヌ羽田空港) チェックインは15:00～ 結団式(全競技合同) 指導者ミーティング(全競技)
8月23日(土)	5:20 5:30 8:30～ 11:15～ 16:55～20:12	ホテル出発 羽田空港着 搭乗手続き 羽田空港発 CA184便(中国国際航空) 北京空港着 入国手続き バス移動 北京北駅～包頭駅(G2495高速鉄道) ホテル着 夕食
8月24日(日)	10:00～	練習 開会式
8月25日(月)	10:00～	対 内モンゴル自治区
8月26日(火)	10:00～	対 韓国
8月27日(水)	10:00～ 19:00～	対 中国 閉会式(フレンドシップ交流)
8月28日(木)	9:00～	文化探求
8月29日(金)	5:20 6:00 7:32～10:50 12:00～ 17:00～ 21:30着	ホテル出発 包頭駅着 包頭駅～北京北駅(G2492高速鉄道) バス移動 北京空港着 搭乗手続き 北京空港発 CA183便(中国国際航空) 羽田空港着 入国手続き 到着後解散、後泊



(中国高速鉄道)



(サイハントラ城中草原)

8. 役員・選手名簿

役 職	氏 名	所 属
団 長	塚田 博文	(公財)全国高体連卓球専門部
男子監督	小林 明史	(公財)全国高体連卓球専門部
女子監督	野木森孝充	愛知県・桜丘高等学校
男子選手	谷本 拓海	兵庫県・育英高等学校
	持田 陽向	愛知県・愛工大名電高等学校
	星 和志	栃木県・文星芸大附高等学校
	岸本 漣斗	岡山県・関西高等学校
	齋藤俊太郎	高知県・明德義塾高等学校
女子選手	山室 早矢	愛知県・桜丘高等学校
	富田 純菜	大阪府・四天王寺高等学校
	樋口 美空	岡山県・山陽学園高等学校
	熊田 陽花	埼玉県・正智深谷高等学校
	立川 釉菜	高知県・明德義塾高等学校



(宿泊ホテル 包頭賓館)

团体对战成绩(Boys' Team Detailed Score)

8月25日(August 25th)				
1. 中国(CHN)	--	3. 韩国(KOR)	5:0	
费浚航(FEI JUNHANG)	--	李星玟(LEE SEONGMIN)	3:1	(-5,8,4,10)
李陆同(LI LUTONG)	--	朴峻希(PARK JUNHEE)	3:1	(10,-9,7,6)
费浚航(FEI JUNHANG)	--	金丙勋(KIM BYEONGHUN)	3:2	(8,-13,9,-5,4)
周锦泉(ZHOU JINQUAN)	--	文宣雄(MOON SUNWOONG)		
王吉轩(WANG JIXUAN)	--	吴柳缙(OH YUJIN)	3:1	(3,8,-7,9)
孙龙(SUN LONG)	--	文宣雄(MOON SUNWOONG)	3:1	(-8,5,5,8)
4. 日本(JPN)	--	2. 包头(BT)	4:1	
持田陽向(MOCHIDA HINATA)	--	李嘉坤(LI JJIAKUN)	1:3	(-6,9,-6,-9)
谷本拓海(TANIMOTO TAKUMI)	--	杨余斌(YANG YUBIN)	3:0	(9,4,7)
星和志(HOSHI KAZUSHI)	--	王禹龙(WANG YULONG)	3:1	(-10,7,7,5)
齋藤俊太郎(SAITO SHUNTARO)	--	刘子豪(LIU ZIHAO)		
岸本漣斗(KISHIMOTO RENTO)	--	刘睿泽(LIU RUIZE)	3:0	(6,8,9)
齋藤俊太郎(SAITO SHUNTARO)	--	王禹龙(WANG YULONG)	3:0	(7,8,10)

8月26日(August 26th)				
1. 中国(CHN)	--	2. 包头(BT)	5:0	
费浚航(FEI JUNHANG)	--	李嘉坤(LI JJIAKUN)	3:0	(3,6,3)
周锦泉(ZHOU JINQUAN)	--	刘睿泽(LIU RUIZE)	3:2	(8,-6,-11,5,3)
孙龙(SUN LONG)	--	王禹龙(WANG YULONG)	3:0	(4,6,5)
李陆同(LI LUTONG)	--	刘子豪(LIU ZIHAO)		
王吉轩(WANG JIXUAN)	--	杨余斌(YANG YUBIN)	3:1	(7,-7,3,6)
李陆同(LI LUTONG)	--	王禹龙(WANG YULONG)	3:2	(4,-9,5,-7,5)
3. 韩国(KOR)	--	4. 日本(JPN)	3:2	
李星玟(LEE SEONGMIN)	--	岸本漣斗(KISHIMOTO RENTO)	3:1	(11,9,-2,6)
吴柳缙(OH YUJIN)	--	谷本拓海(TANIMOTO TAKUMI)	3:0	(7,7,10)
李星玟(LEE SEONGMIN)	--	谷本拓海(TANIMOTO TAKUMI)	0:3	(-7,-8,-5)
朴峻希(PARK JUNHEE)	--	齋藤俊太郎(SAITO SHUNTARO)		
金丙勋(KIM BYEONGHUN)	--	星和志(HOSHI KAZUSHI)	3:2	(7,6,-5,-8,9)
文宣雄(MOON SUNWOONG)	--	持田陽向(MOCHIDA HINATA)	1:3	(-8,7,-8,-6)

8月27日(August 27th)				
1. 中国(CHN)	--	4. 日本(JPN)	1:4	
费浚航(FEI JUNHANG)	--	谷本拓海(TANIMOTO TAKUMI)	1:3	(-5,-7,6,-8)
王吉轩(WANG JIXUAN)	--	齋藤俊太郎(SAITO SHUNTARO)	3:1	(7,4,-7,6)
费浚航(FEI JUNHANG)	--	谷本拓海(TANIMOTO TAKUMI)	1:3	(5,-4,-7,-10)
周锦泉(ZHOU JINQUAN)	--	持田陽向(MOCHIDA HINATA)		
李陆同(LI LUTONG)	--	岸本漣斗(KISHIMOTO RENTO)	1:3	(-8,-5,7,-6)
孙龙(SUN LONG)	--	星和志(HOSHI KAZUSHI)	2:3	(-9,7,6,-8,-4)
2. 包头(BT)	--	3. 韩国(KOR)	0:5	
刘睿泽(LIU RUIZE)	--	金丙勋(KIM BYEONGHUN)	1:3	(-8,9,-9,-7)
李嘉坤(LI JJIAKUN)	--	李星玟(LEE SEONGMIN)	2:3	(8,-7,3,-8,-8)
王禹龙(WANG YULONG)	--	吴柳缙(OH YUJIN)	0:3	(-7,-12,-5)
刘子豪(LIU ZIHAO)	--	金丙勋(KIM BYEONGHUN)		
杨余斌(YANG YUBIN)	--	朴峻希(PARK JUNHEE)	1:3	(-6,10,-8,-9)
王禹龙(WANG YULONG)	--	文宣雄(MOON SUNWOONG)	0:3	(-8,-9,-8)

女子团体对战成绩(Girls' Team Detailed Score)

8月25日(August 25th)				
1.中国(CHN)	--	3.韩国(KOR)	2:3	
向俊霖(XIANG JUNLIN)	--	金太民(KIM TAEMIN)	2:3	(-9,5,-10,12,-9)
陈显畅(CHEN XIANCHANG)	--	朴芮伶(PARK YERYEONG)	3:2	(11,-13,5,-10,7)
向俊霖(XIANG JUNLIN)	--	金荷娜(KIM HANEUL)	0:3	(-9,-8,-7)
王远(WANG YUAN)	--	徐炫智(SEO HYEONJI)		
魏璟茗(WEI JINGMING)	--	高慧圆(KO HYEWON)	2:3	(-9,7,7,-7,-5)
胡一(HU YI)	--	金荷娜(KIM HANEUL)	3:2	(10,5,-9,-10,7)
4.日本(JPN)	--	2.包头(BT)	5:0	
山室早矢(YAMAMURO SAYA)	--	刘泽逸(LIU ZEYI)	3:0	(5,5,7)
樋口美空(HIGUCHI MIKU)	--	柳畅(LIU CHANG)	3:1	(-9,7,7,7)
山室早矢(YAMAMURO SAYA)	--	刘泽逸(LIU ZEYI)	3:0	(1,1,2)
富田純菜(TOMITA JUNNA)	--	高子怡(GAO ZIYI)		
熊田陽花(KUMADA HARUKA)	--	连月溪 LIAN YUEXI)	3:2	(-9,5,6,-8,6)
立川釉菜(TACHIKAWA YUNA)	--	马智立(MA ZHILI)	3:0	(5,9,4)

8月26日(August 26th)				
1.中国(CHN)	--	2.包头(BT)	5:0	
魏璟茗(WEI JINGMING)	--	刘泽逸(LIU ZEYI)	3:0	(2,5,3)
陈显畅(CHEN XIANCHANG)	--	柳畅(LIU CHANG)	3:1	(4,9,-9,6)
向俊霖(XIANG JUNLIN)	--	刘泽逸(LIU ZEYI)	3:0	(7,8,6)
王远(WANG YUAN)	--	马智立(MA ZHILI)		
向俊霖(XIANG JUNLIN)	--	连月溪 LIAN YUEXI)	3:0	(1,4,5)
胡一(HU YI)	--	高子怡(GAO ZIYI)	3:0	(2,3,1)
3.韩国(KOR)	--	4.日本(JPN)	1:4	
徐炫智(SEO HYEONJI)	--	山室早矢(YAMAMURO SAYA)	1:3	(-9,-8,7,-6)
金太民(KIM TAEMIN)	--	熊田陽花(KUMADA HARUKA)	1:3	(10,-9,-8,-7)
朴芮伶(PARK YERYEONG)	--	熊田陽花(KUMADA HARUKA)	1:3	(13,-2,-5,-4)
金荷娜(KIM HANEUL)	--	立川釉菜(TACHIKAWA YUNA)		
高慧圆(KO HYEWON)	--	富田純菜(TOMITA JUNNA)	2:3	(7,9,-3,-8,-4)
朴芮伶(PARK YERYEONG)	--	樋口美空(HIGUCHI MIKU)	3:2	(4,-8,-8,8,10)

8月27日(August 27th)				
1.中国(CHN)	--	4.日本(JPN)	4:1	
魏璟茗(WEI JINGMING)	--	山室早矢(YAMAMURO SAYA)	3:0	(4,12,13)
陈显畅(CHEN XIANCHANG)	--	樋口美空(HIGUCHI MIKU)	3:0	(7,8,10)
向俊霖(XIANG JUNLIN)	--	熊田陽花(KUMADA HARUKA)	3:0	(6,7,9)
王远(WANG YUAN)	--	立川釉菜(TACHIKAWA YUNA)		
胡一(HU YI)	--	富田純菜(TOMITA JUNNA)	0:3	(-9,-3,-3)
向俊霖(XIANG JUNLIN)	--	熊田阳花(KUMADA HARUKA)	3:0	(5,5,6)
2.包头(BT)	--	3.韩国(KOR)	0:5	
连月溪 LIAN YUEXI)	--	金荷娜(KIM HANEUL)	2:3	(-9,9,9,-5,-10)
柳畅(LIU CHANG)	--	金太民(KIM TAEMIN)	0:3	(-8,-7,-5)
刘泽逸(LIU ZEYI)	--	徐炫智(SEO HYEONJI)	1:3	(5,-5,-9,-7)
马智立(MA ZHILI)	--	高慧圆(KO HYEWON)		
刘泽逸(LIU ZEYI)	--	徐炫智(SEO HYEONJI)	1:3	(9,-7,-8,-1)
高子怡(GAO ZIYI)	--	朴芮伶(PARK YERYEONG)	0:3	(-9,-5,-6)

大会スナップ1



(日本選手団)



(日本選手団と内モンゴル自治区選手団)



大会スナップ2



大会スナップ3



大会スナップ4



『第 33 回日・中・韓ジュニア交流競技会に参加して』

団長（公財）全国高体連卓球専門部 塚田 博文

今回で 33 回目を迎える日本・中国・韓国ジュニア交流競技会は、中国の内モンゴル自治区にある包頭市で 8 月 23 日(土)～29 日(金)の日程で開催されました。この交流競技会は、日本・韓国・中国と地元チームから卓球を含めた 11 競技総勢約 1,000 名が集い、技術の向上と交流を目的に毎年開催され、今回私は団長として参加させていただきました。

8 月 22 日夕方、羽田のホテルに全種目の日本選手団が集合し結団式が行われ、翌朝 5 時 30 分にホテルを出発、北京空港からはバスと新幹線を使って 21 時 30 分にホテルに到着しました。内モンゴル自治区は中国北部に位置し、総面積は日本の約 3 倍で、海拔 1,000m 以上のところにあるため、日本の秋を思わせる涼しい陽気でした。出発までは、田舎のイメージがありましたが、高層マンションが何百棟も立ち並び、デパートには高級ブティックも入っていました。また、10 年ほど前は、日本の中古車がたくさん走っていましたが、今は、約 3 割が各国の高級車が走っているなど、経済発展を肌で感じることができました。また、今大会の移動の際には、大型観光バスが約 30 台準備され、交差点には警察官が信号を青に変え、パトカーがバスの先導をし、一度も停まることなく目的地まで誘導してくれました。日本では外国の要人が移動する際に行われることが、我々選手団のためにやってもらい、大感激をしました。

さて、試合は、韓国、中国、地元チームと 1 日一試合ずつ 1D4S の団体戦で行われました。ここ十数年、男女とも中国には完敗、韓国とは互角、地元チームには完勝という状況が続いていましたが、男子チームは中国に 4-1 で勝利するという快挙を成し遂げました。今回出場した中国の選手は、ナショナルチーム 2 軍の中から選抜され、1 軍昇格を目指し毎日必死に練習に励んでいるそうです。中国では、一流の卓球選手を目指す場合、小学生の頃から学校の授業は 2 時間のみで、後は卓球の練習時間にあてられ、市⇒省⇒国 2 軍⇒国 1 軍といったピラミッド構造が構築されているとのこと、国家 2 軍といっても、中国ではかなり名の知れた選手ばかりです。そんな中国に勝利した日本選手たちは、本当に良く頑張ってくれました。試合後は、記念撮影や、SNS のアカウントを交換している姿が見られ、目的の一つである交流についても、十分できたと思いました。私たちスタッフも、会場で韓国、中国のスタッフと卓球談議で盛り上がるすることができました。

終わりに、(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本卓球協会、ご協賛をいただいたメーカー各社、男子監督の小林先生、女子監督の野木森先生には、大変お世話になりました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。加えて今回参加した選手たちがこの競技会を糧に、より競技力の向上を目指し活躍してくれることを期待するとともに、卓球を通じ世界各国の選手と更なる交流を持ち、それが平和な世界への発展につながることを願います。

男子監督（公財）全国高体連卓球専門部 小林 明史

令和 7 年 8 月 23 日から 29 日にかけて、中国・内モンゴル自治区にて開催された第 33 回日中韓ジュニア交流競技会に男子監督として参加させていただきました。本大会は、日本・中国・韓国の三カ国によるジュニア世代の国際交流と競技力向上を目的としており、各国と地元内モンゴル自治区の 11 競技の代表選手が一堂に会し、技術と精神力を競い合う貴重な機会となりました。

開催地である内モンゴル自治区は、事前のイメージとは異なり、都市部は非常に発展しており、近代的な建物や高層ビルが建ち並び交通インフラも整備され、外国の高級車も多く走っていました。気候も日本の夏と比べて涼しく、湿度も低いため、選手の体調管理がしやすく、コンディション面での不安はありませんでした。また、開会式や閉会式を兼ねたフレンドシップ交流会への移動には、大型バスを警察車両が誘導し交差点の信号もすべて青信号に制御され、ノンストップでの会場移動となりました。中国という国を挙げてのおもてなしに感動しました。

日本男子チームは、「打倒中国」と「国際交流」を目標に交流競技会に臨みました。1 日目は地元内モンゴル自治区の選抜チームに 4 対 1 で勝利しました。2 日目は韓国チームと対戦し 2 対 3 で惜敗しました。台の弾み具合やボールの軌道に修正ができず悔しい敗戦となりました。最終日は地元中国代表と対戦しました。中国チームは国

家 2 軍の選手で構成され、今年度のアジアジュニアの代表選手もエントリーされるなど、高い技術力と精神力を兼ね備えた代表チームでしたが、日本チームはサーブ・レシーブや冷静な試合運び、粘り強いプレーでこれを上回り、見事勝利を収めました。中国チームに勝利したのは平成 15 年以降の記録にはなく、快挙といっても過言では無いと思います。韓国戦後の夜には、対中国戦をふまえ、選手だけで緊急ミーティングを開催したと聞き、選手たちの「打倒中国」に対する姿勢と勝利への意欲には感心しました。この勝利は選手たちにとって大きな自信となり、今後の国際大会への意欲を高める結果となったと思います。

競技以外では、各国選手との交流イベントや合同練習が行われ、言語や文化の違いを超えたコミュニケーションが生まれました。選手たちは互いに技術を学び合い、友情を育む貴重な経験を積むことができました。また、現地の文化に触れる機会もあり、視野を広げる良い刺激となりました。

本大会を通じて、国際舞台での経験が選手の成長に大きく寄与したと感じています。今後は、より高度な戦術や精神面の強化を図り、世界で通用する選手に育ててほしいと思います。また、役員としても、異文化理解と柔軟な対応力の重要性を再認識する機会となりました。

最後に、開催にあたり(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本卓球協会、協賛いただいた卓球メーカー各社には改めて感謝申し上げます。本大会において経験したことを今後の指導に活かし、高校卓球界の発展に寄与していきたいと思います。

女子監督 桜丘高等学校 野木森 孝充

この度は、日・中・韓ジュニア交流競技会日本女子監督として帯同させていただき、ありがとうございました。各競技会に加え、全参加者での開会式やフレンドシップ交流会も盛大に行われ、種目を越えた国際交流を経験することができ、大変意義深く貴重な経験となりました。

初日はホテルに集合し、各競技の顔合わせ、ミーティングが行われました。「日本代表としての姿勢、行動」ということを伝えられ身の引き締まる思いに。塚田団長からは「中国・韓国と積極的に交流してほしい。」と。

さて試合について、女子は1日目に地元内モンゴル自治区に5-0と幸先良いスタート。隣のコートでは中国が韓国に2-3で敗れる波乱。中国の1番手の選手が競り合いに負けると流れを止められなくなってしまった。見ていて勝負の怖さを知る展開だった。

2日目は韓国に4-1で勝利。日本のサーブ、異質型の変化で翻弄できた。韓国のオーソドックスなプレースタイルに日本選手は力を発揮しやすかった。

3日目の中国戦。中国は韓国に敗れていたため非常に気合が入っていた。中国の意地が準備の段階から違っていた。案の定1番手の選手から気迫全開で日本にぶつかってきた。結果1-4で中国に敗退。技術的には中国のサーブに苦しんだのもあるが、それ以上に中国の本気に圧倒された。世界一の中国だからこそ普段からのしのぎを削って生き残り(国家チーム)を賭けた戦いをしている選手たちのメンタルの強さに衝撃であった。

試合後には日本選手が中国、韓国の選手と積極的に身振り手振りを交えてコミュニケーションを図り、絆を深める様子が見られた。今時の選手たちならではの携帯での翻訳や写真撮影など止めなければずっとやっているのではないのかというくらい盛り上がっていた。我々指導者も国際大会に帯同した時とは違い、ラフなムードで交流できる雰囲気がとても良かった。フレンドシップ交流会では各国の選手たちが歌や踊りを披露し楽しんだ。言語や文化の壁を越え、スポーツを通じた国際交流の場として貴重な経験をさせてもらいました。

最後になりますが、開催にあたり公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本卓球協会、全国高体連卓球専門部の先生方には改めて感謝申し上げます。本交流競技会において私自身が経験したことを指導に活かし、高校卓球界の発展、さらには日本代表として世界へチャレンジできる選手の育成を目指して努力していきたい。

この度は日中韓ジュニア交流大会に参加させて頂きありがとうございました。この大会では、日本、中国、韓国の選手たちが集まり、国を超えた交流を目的とした卓球の試合や文化交流が行われました。普段は日本国内の試合にしか出場しない私にとって、海外の選手たちと接することはとても新鮮で、刺激的な体験となりました。

試合では、技術の違いやプレイスタイルの多様性を実感しました。特に中国の選手はラリーの速さや正確さが際立っていて、そのレベルの高さに驚かされました。一方で、韓国の選手はフットワークが非常に優れており、どんなボールにも食らいつく粘り強さが印象的でした。日本の選手としての自分を見つめ直す良い機会にもなり、これからの練習の課題がはっきりと見えました。

また、試合後には各国の選手たちと食事を共にし、お互いの文化や言語についても学ぶことができました。言葉が通じにくい場面もありましたが、卓球という共通の言語があることで自然と会話が生まれ、笑顔で交流することができました。スポーツには国境を越える力があることを実感しました。

今回の交流を通して、卓球の技術だけでなく、人と人とのつながりの大切さも学ぶことができました。これからもこの経験を活かして、技術の向上に努めると同時に、国際的な視野を持った選手を目指していきたいです。

この度は日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。この日韓中ジュニア競技会に参加して得たものは、私の競技人生に大きく影響すると思います。今回のとても濃い 5 日間のおかげで、色々なことを得ることが出来ました。

今まで国外の選手と試合をすることは何度もありましたが、交流というものはできていませんでした。ですが、この交流会で国外の選手と深く交流することができました。この交流会を終えて「もっと勉強して中国語や韓国語を話せるようになって会話をしたい」と強く思いました。やはり会話ができないと交流というのはできないですし、自分の伝えたいこと、聞きたいことがうまく伝えられないことが多かったのもっと勉強してまた交流する機会があれば積極的に話しかけていきたいと思いました。

交流試合を終えて、日本では感じることでできない中国選手や韓国選手の卓球の強みを感じる事が出来ました。中国では卓球が国技として根付いているため卓球に対する高い意識を感じました。中国選手は、一球一球の質が高いのはもちろんですし、フットワーク力がすごいなと感じました。簡単にミスをしないうのが中国選手の強みで試合の中で自分も簡単にミスをする事が許されないという気持ちでとても高い緊張感で試合が出来ました。中国のメンバーは一軍選手ではありませんでしたが、打倒中国を目指して結果的に勝つことが出来たのは、すごく自信になりました。韓国選手は、安定感というよりかは、ドライブの回転量や一発の威力が凄まじかったです。特にフォアドライブの決定力というのは中国選手を上回っていてフォアドライブを打たせたくないという気持ちから良い展開で試合を進めることができなかった印象です。サーブの質もとても高く、見た目以上に回転が強く、サーブの種類がとても豊富でした。試合をしてみて、自分の弱さや通用する物などたくさん見つかりました。日本に戻ってから改善すべき点を明確にして取り組み、通用したところはさらに精度を高めて伸ばしてこうと思います。

生活の面では、日本とは全く違う文化を感じる事が出来ました。印象的だったのは食事での料理も匂いが強く、日本人にはなかなか合わないのかなと感じました。美味しい料理も多く、中華料理は本場の味を味わうことができてとても嬉しかったです。

今回の交流会で本当に多くのことを学ばせていただきました。今回得られた経験を今後の自分の卓球人生に活かしていけるように日々前進します。また、自分たちが充実した一週間を過ごせたのは、現地の通訳さんやコーチ、スタッフの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

この度は日中韓ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。結果としては韓国に負け中国に勝ちました。韓国戦では私が十分勝つことができる相手に負けてしまったことでチームも負けてしまったので非常に悔しい思いをしました。大事な場面で何度もレシーブミスをしてしまったのが敗因だと思います。特に最終ゲームの 9-9 で 2 度レシーブミスをしてしまったのはとてももったいなかったと感じています。中国戦ではコース取りを考えて強打できたことに加え、私のサーブがとても効いたことで勝つことができました。しかし、中国選手の回転量の多いボールや凡ミスの少なさは参考にすべきだと感じました。帰国後は、レシーブの精度を上げ、中国選手のようなプレーを意識して練習に取り組んでいきたいです。さらに今回は台やボールが日本で普段使っているものとは異なるものを使っており、そのような部分への対応力も求められるのだと感じました。

また、中国や韓国の選手と一緒に練習した際には英語や身振り手振りを使って自ら積極的にコミュニケーションを取るように心掛け、最終的には打ち解けることもできました。ですが、やはり伝えたいことがうまく伝わらないことも多々あったのでこれからも外国語学習に励もうと思います。

文化探求の日には、博物館で中国の歴史について学び、草原に行って自然に触れることができました。

このような交流会を開催できるのも多くの方の協力があってこそだと思いますので、心から感謝しています。今回の経験を活かして、さらに成長できるように頑張っていきたいと思います。

この度は、日中韓ジュニア交流大会に参加させていただき、ありがとうございました。

去年は日韓交流大会に参加し、韓国の選手と試合をする機会がありましたが、中国の選手と試合をするのは今回が初めてでした。中国は日本や韓国とは違ったプレースタイルで、パワーがあり、技術の幅も広いいため、普段受けることのない球質を受けることができ、とても良い経験になりました。

試合では全試合シングルスに出場しました。結果は、包頭戦・中国戦では勝利しましたが、韓国戦では敗れてしまいました。負けた反省点としては、1 ゲーム目で 10-8 とリードしていながら取り切れなかったこと、そしてサーブが単調になってしまったことです。格上の選手に勝つためにはまず 1 ゲーム目を取ることが重要ですが、前に出て攻め切ることができず、後ろに下がって打球点を落としてしまい、ミスにつながりました。2 ゲーム目以降は相手に先手を取られ、攻めの展開を作れずに敗れてしまいました。今後は、リードしている場面で単調にならず、戦術を思い切って変えられるようにすること、またサーブ・レシーブをなど一つひとつの技術レベルをさらに高めることが課題だと感じました。包頭戦・中国戦ではきっちり勝つことができました。良かった点は、前に入って台の近くでピッチの早い卓球ができたこと、そして相手の弱点を徹底的に攻められたことです。何が効いて何が効かないのかを冷静に考えながら試合ができたので、日本に帰ってから同じようにプレーできるようにしたいと思います。

また、卓球を通じて中国や韓国の選手と交流を深めることができました。英語で話し始めて少しずつ理解し合い、最終日にはお互いの母国語を教え合えるほど仲良くなることができました。今回の合宿を通して、卓球の競技力だけでなく人間性も磨き、今よりさらにレベルアップできるよう努力していきたいと思います。

今回は日中韓ジュニア交流大会に参加させてもらいありがとうございました。普段の練習では味わえないような、国境を越えた交流や、異なる文化を持つ選手たちとの出会いを通して、多くのことを学ぶことができました。

大会では、技術の高さだけでなく、各国の選手たちのプレーに対する姿勢や礼儀、仲間への思いやりに深い感銘を受けました。特に中国や韓国の選手たちはスピードやパワーに優れており、日ごろの練習の成果を十分に感じさせるプレーばかりでした。それに対して私たち日本チームも、粘り強くラリーを続けるプレースタイルや、冷静な試合運びで健闘しました。国ごとの特徴がプレーに表れていて、見ているだけでも非常に勉強になりました。

また、試合以外の時間では、言葉の壁を越えて交流を深めることができました。英語や翻訳アプリを使いながら、お互いの趣味や日常生活について話すことができ、国は違っても同じ卓球を愛する仲間としてすぐに打ち解けることができました。言葉が通じにくくても、ラケットを握れば自然と心が通じる——そんなスポーツの力を改めて実感しました。

この交流大会を通じて、自分の課題も明確になりました。体力の差やスピードへの対応力、メンタルの強さなど、今後の練習で意識すべき点が多く見つかりました。次回またこのような大会があれば、今回の経験を生かし、より成長した自分で参加したいと思います。

最後に、このような素晴らしい大会を開催・運営してくださった関係者の皆様、そして交流してくれた中国・韓国の選手の皆さんに心から感謝いたします。この経験は、私の人生の中でも特に印象に残る大切な思い出となりました。

桜丘高等学校 山室 早矢

この度、日中韓交流試合に参加させていただきありがとうございました。交流試合を通して、韓国や中国の選手の卓球スタイルに触れることができ、日本では感じるできないプレーを経験することが出来ました。韓国の選手はドライブのスピードやコースが重視されていて相手のサーブからの展開や競った場面でのプレッシャーを感じるが多かったです。中国の選手は、無駄のミスがなく安定性があるので一球一球のボールの重みが全然違いました。特に中国戦ではカットマンという同じプレースタイルの選手と対戦して自分とは違う戦い方や、攻撃のコースや攻めるタイミングが自分より上回っているなど感じました。負けている時でも挽回していくことはあったけど競った場面であと一点がとりきれないが多かったのでまだまだ練習不足だと思いました。自分の弱みを認識することが出来たので日本に帰ってからもこの反省を活かして頑張っていきたいと思います。

生活の面では、日本とは違う食文化で味が濃いものが多くスパイシーな料理が印象的でした。また、韓国や中国の選手はもちろん、コーチやスタッフの方々とも交流を深めることができ、言語や文化の違いを超えて理解合うことの重要性を実感しました。私は学校で1年間中国語の勉強をする機会があったので、今回の交流試合で中国の選手やコーチと中国語で伝えたり聞き取ったり出来たのが凄く嬉しかったです。このように他国の言語を勉強しておくことの重要さが分かったのでこれからも他国の言語を勉強していくことが大切だと思いました。

この交流試合で卓球の技術だけでなく、他国の文化や違いなどを学ぶことが出来ました。この経験を活かして日本に帰ってからも成長していけるように頑張りたいです。本当にありがとうございました。

四天王寺高等学校 富田 純菜

今回は日中韓交流会に参加させて頂き、ありがとうございました。今回の交流会を通じて、気づいたことが沢山ありました。

試合では、中国の選手はレシーブから攻めに出たり、横回転をかけて返したりと、様々なレシーブをしていました。ラリーでは、回転を重視したドライブを左右に振りながら、その中でボールを浮かせて決めにいくスタイルでした。私は前半、浮かしてしまったり、左右に振られた際にミスを多くしてしまい、出だしがあまり良くありませんでした。その中で試合を重ねるうちに相手のボールに慣れてきて攻撃のタイミングが掴めたり、余裕を持って打てるようになったり、横回転をかけてきたボールをあえて利用したりと、様々な工夫をすることができて、良い経験になりました。韓国の選手はあまり無理に打たず、ツッツキと私のバックラバーのイボを中心に、強弱のドライブを打ちながらミスを誘うスタイルでした。前半は、私が強弱のドライブの距離感を全く掴めず、攻撃も入らない状況だったので、もっと早くボールに慣れる必要があると思いました。また、バックを中心に狙われるが多かったため、その際には反転して表ラバーを使ったり、前でブロックしたりと、より工夫を重ねていきたいです。

最終日の練習では、3か国混合の団体戦の1点試合を行い、お互いに相手のボールに慣れていない状況で多くの人と試合ができ、大変良い経験となりました。その中で、ほかの国の人と関わることが多かったがスマートフ

オンに頼ることなく、ジェスチャーやほかの国での言葉を聞いて一緒に使ったりなど仲を深めることができた点も良かったと思います。

交流会では、日本の選手とは少し異なるラリーの組み立て方を経験でき、とても貴重な経験になりました。ありがとうございました。

山陽学園高等学校 樋口 美空

この度、日中韓の交流試合に参加させていただき、ありがとうございました。

今回の試合を通して気づいたことが沢山ありました。まず韓国と中国の選手はすごく安定したプレーが多く、点数が接戦になっているところでも平常心で落ち着いてプレーをしていたので、私もこのように安定性のある試合を意識していけるようにしていきたいなと思いました。戦術の面では、前陣でしかプレーができないところを他の国の選手は前陣でも後陣でもラリーができていました。レシーブも特に中国の選手は大事なところで思い切ったレシーブをしていて私は基本的なレシーブしかできなくて相手も完全に待たれてしまいました。

また、中国の選手は特にサーブ 3 球目からしっかりと相手をみてどのコースに打てばいいかなどと本当によく見ていると思いました。ラリーになると緩急をつけてコースをつき相手に対してゆさぶりをかけていて、私もそのようになりたいと思いました。韓国の選手は長いサーブが特に上手くこの場面で出されたくないという時に必ず出されていました。私はあたり長いサーブに自信があったとしても自分もせっていて絶対この 1 本欲しいと言う時にいつも通りのサーブは出せないと思います。韓国の選手みたいに接戦になっている場面でも自分の得意なサーブや相手にきいているサーブを思い切って練習通りに出せるように練習していきたいと思いました。

各国と練習させていただいた時には言語の部分で困ることはありましたがジェスチャーであったり翻訳機能を使って練習メニューを伝えたり出来た部分が本当にいい経験となりました。またこのような機会がもしあれば今回の日中韓の経験をいかして行きたいと思います。

正智深谷高等学校 熊田 陽花

8 月の 23 日から 29 日に開催された第 33 回日中韓ジュニア交流競技会に参加させていただきました。今回の日本、中国、韓国の交流を通して感じた事がありました。

1 つ目は 1 ゲーム目の大切さです。今回の競技会では、台や相手のボールに慣れるのが遅く、全ての試合で 1 ゲーム目を取られてしまいました。自分の苦しい展開から始まる試合が多く中々流れを掴むことが出来なかったもので、色々な人のボールを受けて対応力をつけすぐに相手のボールに慣れ、流れを掴むことが出来るようにしたいです。

2 つ目は様々な技術の安定性です。大事な場面やゲームの始めは特にレシーブミスなどの簡単なミスがなくプレッシャーを感じる事がありました。私は特にレシーブからバックを攻められ崩される事が多かったのでバックとレシーブの安定性を強化していきたいです。

3 つ目は必ず 1 本取れるというパターンがあり、サーブからの 3 球目で取られる事も多く、大事な場面でサーブを変えられそれに対応出来ずに簡単なミスをしてしまいました。ゲームを通して、私には大事な場面でサーブを切り替える判断力と必ず 1 本取れるというパターンを増やす事が必要だなと感じました。

今回は日本、韓国、中国の試合だけでなく練習も一緒にすることができ、試合では当たらなかった色々な人のボールを受ける事ができとても良い経験になりました。また、練習を通してコミュニケーションを取ったことで仲を深める事が出来ました。

今回の競技会で色々な刺激を受け、自分の課題がたくさん見つかりました。この課題を改善しこれからに生かしていきたいです。

最後に、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

第33回日中韓ジュニア交流競技会に参加させていただくにあたり、色々なサポートをしてくださりありがとうございました。

今回の合宿での反省は、海外の選手にはあって自分にはないものが見つかりました。自分はサーブとバックが得意ですがバックは海外の選手にも通用できました。しかしサーブは日本ではあまり取られないサーブでも当たり前のように返してきたりそれを狙って来たりと日本ではないようなボールが返ってきたりしたので、もっと一つの制度を上げようと思いました。また自分はフォアが苦手ですが、いつも海外の選手はみんなフォアのミスがすごく少なくて、少しでも甘いボールを送ってしまった時は絶対にフォアで決めていました。自分もそんなボールを打てるように、海外の選手や今回当たった選手の研究をして自分の物にしていきたいと思います。自分は日中韓に参加させてもらうのは初めてですが、みんなすごく仲良くしてくれて日本のチーム内でも仲良くやっていくことが出来ました。競技の最終日の練習では日中韓全員で練習をすることができてより仲が深まったと思います。

観光では中国の歴史や文化を学ぶことができ、スーパーに行って中国のお菓子や食べ物、飲み物など色々なものを見て回ることができました。草原にも行かせていただき沢山の花が咲いていました。

これから日本に帰っても日中韓での経験を活かせるようにもっと研究し自分を高めていきたいと思います。合宿に参加させていただいてありがとうございました。